

# 令和6年度 倉敷市立工業高等学校 学校自己評価表

<p><b>1 生徒理解をすべての教育活動の根幹とする。(生徒理解)</b></p> <p>(1) 生徒の未来シートや生徒連絡会の充実 (2) GoogleWorkspace等を活用した支援体制の充実 (3) SC・SSWと連携した多様な生徒への支援の充実</p> <p><b>2 主体的に学ぶ喜びを体感させる。(授業)</b></p> <p>(1) ものづくり教育やICTを活用した授業の充実 (2) 教科横断的な連携による基礎学力の充実、全教員を対象とした公開授業の実施 (3) 自己評価やルーブリックを活用したパフォーマンス評価手法の推進</p>	<p><b>3 自己肯定感を持たせる。(自主)</b></p> <p>(1) 生徒会活動、クラス活動、部活動等自主的活動の推進 (2) 地域連携、社会貢献活動の推進 (3) 生徒の活躍を積極的に情報発信するなど広報活動の充実</p> <p><b>4 将来の自分の姿を描かせる。(進路)</b></p> <p>(1) キャリアパスポートの有効活用と系統的なキャリア教育の実践 (2) 就労支援による「働きつつ学ぶ」という生活スタイルの確立 (3) 各種検定の取得に向けた取組の推進 (4) 地元企業見学や出前事業など体験的な学習をととした進路指導の充実</p>
--	---

経営目標	最終評価	最終評価	次年度へ向けた課題
生徒理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>眼科(R5 100% R6 88.6%)歯科(R5 93.5%からR6 100%)尿検査、心電図、胸部レントゲンは昨年同様100% 欠席気味の生徒の動向が影響している。(庶務課)</li> <li>過去に前例のない件での長期的な特別指導に対して、課全体及び、担任とも連携を図り、指導期間を終えることができた。(生徒課)</li> <li>夏場には、下校時の学校周辺の見回りや、声掛けを行った。未然防止も含めた、継続的指導が必要である。(生徒課)</li> <li>生徒連絡会(非常勤講師対象も含め)は予定通り開催し、各学年団討議とあわせて学年目標の決定・実施と生徒情報を確認し共有できた。(人権相談)</li> <li>SC、SSWには授業参観や各種資料による学校・生徒の状況把握と、課題を持つ生徒について教員への助言や保護者対応への手助けをいただいた。相談室の生徒利用は1、2名ではあるがみられた。(人権相談)</li> <li>多様な生徒に対応した実習の班編成を、個人やクラスの状況などの情報共有の上、相談して行っており、しっかり機能している。生徒の興味関心に合わせた内容のショップをつくり、長所を伸ばしていけるように考えた。(機械科)</li> <li>非常勤の先生方と生徒情報を共有し、指導上問題が生じないようにしている。(機械科)</li> <li>欠課が多いなどの理由で成績不振になりえる生徒の情報を随時共有している。(電気科)</li> <li>授業等で得られた情報がしっかりと共有でき、指導上問題が生じないようにしている。(電気科)</li> <li>説諭や特別指導の対象となった生徒はいない。欠席日数、欠課時数が心配される生徒は多い。(1年団)</li> <li>hyper-QUの「教師との関係」において「学校内に悩みを相談できる先生がいる」の肯定的な回答の合計が61.6%。学年団、担任、課と連携した生徒指導ができています。(2年団)</li> <li>特別指導が1回であった。(4年団)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断未受検者、要治療・要精密検査の対象者への早期受診を促す。(庶務課)</li> <li>生徒連絡会や日常の中で得た情報を課の中で共有し、生徒理解に努める。(生徒課)</li> <li>OJTや学校外の研修で得た知識を共有し、日常の指導に活かす。(生徒課)</li> <li>生徒の未来シートの統一的な記入の仕方と生徒連絡会の運営手順等について見直すことを考えている。(人権相談)</li> <li>学校生活アンケートは現在のところ紙媒体での実施を継続する予定である。(人権相談)</li> <li>課題を持つ生徒への対応を考慮し、非常勤講師対象の生徒連絡会の実施を継続する。(人権相談)</li> <li>生徒の積極的な工業分野への取り組みを推進するには色々な手段を今後も考える必要がある。(機械科)</li> <li>クラス担任、教科担任の連絡が密にできるように継続的におこなっていく。(電気科)</li> <li>学年団での情報共有を行う。生徒課や人権相談課、SC、SSWとの連携を図る。(1年団)</li> <li>教師と生徒の関係の良さを活かして、生徒が学校生活を安心安全に過ごせるようにする。(2年団)</li> <li>学年団、保護者との間で適切に情報を共有する。(4年団)</li> </ul>
授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒版学習のスタンダードを作成し、各授業で実践するなど、授業への姿勢を改善するための取組を学校全体で実施することができた。(教務課)</li> <li>各授業でICT機器を活用し、わかる授業の展開に努めることはできているが、学校全体での情報共有ができる体制は確立できていない。(教務課)</li> <li>授業や実習の充実感を抱くような日常の声掛けや、教科担当者のサポートをすることで、不十分であった。(生徒課)</li> <li>休憩時間においても廊下の巡視や教室移動など、生徒への声掛け等も必要に応じて行ってきた。(生徒課)</li> <li>SC、SSWには授業参観により生徒の実感把握のうえ、担任への助言や外部機関との連携に関する助力をいただいた。(人権相談)</li> <li>実習系科目では最初の授業で実習への取り組み方・ルールや安全作業についてガイダンスを行い、周知徹底している。(機械科)</li> <li>M4機械設計の座学の授業において探究活動を実施した。(機械科)</li> <li>レポートの書式やルーブリックの改善・検討を年度ごとに行っている。(機械科)</li> <li>常習的に遅刻や中抜けをする生徒はいない。規律を守って授業に取り組んでいる。(1年団)</li> <li>年間のSHRの欠課数が1/3を超える生徒の数が現時点で3人。時間を守る意識ができてきたように見える。(2年団)</li> <li>長欠の生徒はいなかった。皆勤の生徒が2名だった。(4年団)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の授業へのやる気を向上させるため、学校全体で情報を共有しつつ、今後も授業展開を工夫していく必要がある。(教務課)</li> <li>担任と連携を図り、校内の規律を維持することができない生徒に対してのアプローチを継続的に行う。(生徒課)</li> <li>発達支持的生徒指導(挨拶・声掛け・励まし・賞賛・対話)を充実させる。(生徒課)</li> <li>生徒連絡会及びSC、SSWの授業参観により得られた生徒情報の有効利用(助言・提案等の教員へのフィードバック等)を図る。(人権相談)</li> <li>SC、SSWを通じ、外部専門機関との連携を図ることに努める。(人権相談)</li> <li>座学における探究活動は単発のものになりやすい。(機械科)</li> <li>ルーブリックやレポートの書式は、今後も年度ごとに見直しを行う。(機械科)</li> <li>遅刻・欠席が減少するよう、日常の観察と声掛けを継続的に行う。市工授業のスタンダードを確認させる。(1年団)</li> <li>時間は守るようになってきた。授業の取り組み方について改善していきたい。(2年団)</li> <li>学年団で必要に応じて情報を共有する。(4年団)</li> </ul>
自主	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な情報発信や働きかけにより、資格・検定試験の受験者、合格者数ともに昨年度より増加した。(教務課)</li> <li>校誌については予定の工程で無事発行の予定で現時点進んでいる。(庶務課)</li> <li>市工祭体育の部が雨天中止となったが、体育科と協議し代替行事を行った。4年生は非常に活発に取り組んでくれた。(生徒課)</li> <li>生徒課主催の各種講演会について課内で連携を図り充実したものととなった。(生徒課)</li> <li>市工祭文化の部では、生徒会主催のクイズスタンプラリーなど、生徒が主体的に計画し、その支援ができた。(生徒課)</li> <li>ものづくりをテーマとして幼稚園との連携事業や、機械科の取り組みを地域の方に知っていただくイベントを実施し、生徒の活動を外に広める取り組みを行った。(機械科)</li> <li>文化祭において科で取得できる資格の情報や作品展示、競技会への参加状況などを広報した。ブログにおいても取り組みの広報を行っている。(機械科)</li> <li>高校生のものづくりコンテスト電子回路組立部門へ1名参加した。</li> <li>JMCR2025中国地区大会へカメラクラスへ3出場し、2台記録を1台記録を残した。昨年度同様に、全国大会へ出場はできなかった。ベシッククラスへも1台出場した。(電気科)</li> <li>高梁川流域未来育成事業に参加し、企業による出前授業(中島防災)、生徒はフィールドワーク(倉敷市消防局)をおこなった。学習活動をおこなった内容を、2025高校生テクノフォーラムにて発表する。(電気科)</li> <li>週番の業務をはじめ、掃除なども責任を持って取り組んでいる。(1年団)</li> <li>市工祭文化の部では、各自が割り振られた仕事を一生懸命頑張っていた。(2年団)</li> <li>他人の意見を真剣に聴き、自分の意見を積極的に発言する様子が見られた。(キャリア教育に関するLHRを2回実施)(3年団)</li> <li>文化祭の取り組みに関するクラス討議など、自分の発言に責任を持ち、客観視することができた。(3年団)</li> <li>部活動加入率が92%であった。資格取得者は1名であった。(4年団)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状では生徒全員が積極的に挑戦できている状態とは言い難い状態である。次年度以降も効果的な情報発信の方法を模索し、積極的な挑戦を促し、生徒の成長に繋げていく。(教務課)</li> <li>校正等のデジタル化をはかるなどの効率化を目指す。(庶務課)</li> <li>生徒が主体的に発表できる場を設け、活発な生徒会行事にしていこう支援する。(生徒課)</li> <li>講演会・安全教室については、講師の選択を課内でも検討し、これまでとは違った視点も検討する。(生徒課)</li> <li>座学における探究活動は単発のものになりやすい。(機械科)</li> <li>ルーブリックやレポートの書式は、今後も年度ごとに見直しを行う。(機械科)</li> <li>校外への学習活動を積極的におこない、生徒への自己肯定感の向上をはかり、生徒の社会参画の機会を増やしていく。(電気科)</li> <li>責任感をもった行動をとるよう継続的に指導する。(1年団)</li> <li>自分たちで役割を見つけられる生徒とそうでない生徒との差が激しい。(2年団)</li> <li>生徒会活動に積極的に取り組む。また、上級生としてお手本となるよう規律ある学校生活を行う。(3年団)</li> <li>校外活動にも視野を広げ、積極的な自立と社会参加を目指す。(3年団)</li> <li>卒業後を見通して、引き続き声掛けを行う。(4年団)</li> </ul>
進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金申請については該当者のうち希望生徒7名について適宜指導することができた。(庶務課)</li> <li>規範意識が低い生徒も在籍しているため、個別面談などを通して基本的な生活習慣の確立に努めた。(生徒課)</li> <li>頭髪指導において、クラス担任と連携を密に指導にあたった。(生徒課)</li> <li>装飾品の校内での取り外しについては、繰り返しの指導が必要である。(生徒課)</li> <li>進路課内の役割分担を明確にし、効率的に業務が行えている。(進路課)</li> <li>キャリア教育として、「進路ガイダンス」「着こなし講座」を実施した。「進路ガイダンス」では専門学校・企業によるガイダンスと、講師による講話により進路意識の向上が図れ、生徒の進路選択に直接役立っている。「着こなし講座」では「ビジネスマナー」と「スーツの着こなし方・ネクタイの結び方」の講習により生徒の社会人への意識の向上につながった。キャリア教育講座をFukureの松井様に行っていた卒業してからのことについて生徒のためになる講座をしていただいた。(進路課)</li> <li>4年生の進路については、年度当初、個人面談を実施し、担任や専門科と連携を取りながら指導を行っている。また、応募前職場見学にも積極的に実施して、進路選択に役立った。(進路課)</li> <li>発達障害の診断のある生徒や、社会に適切に生きていこうという生徒に対する対応、支援については、他の課等と連携を取りながら学校全体で対応ができてきた。しかし、実際の進路選択においては、外部機関との連携などを視野に入れた指導も必要になってきている。(進路課)</li> <li>1、2年生を対象に工場見学を実施し、進路意識の向上や進路選択を含めたキャリア教育ができた。(進路課)</li> <li>キャリア・パスポートについては、キャリア教育の一つのツールとしての定期的な活用が出来ている。(進路課)</li> <li>生徒連絡会を通して生徒の現段階での進路志望の情報共有を図った。(人権相談)</li> <li>教員研修では時事に即した有効な内容での実施となった。(人権相談)</li> <li>M4担任・進路課と連携し、進路実現がなされるよう、面接練習を行った。(機械科)</li> <li>技能検定取得に向けての取り組みや溶接競技会への取り組み、ゼロハンカー大会への取り組みなど、科を挙げて指導に取り組んだ。(機械科)</li> <li>マイスター制度を活用し、技術が仕事に生かせることを実感できるよう配慮して取り組んでいる。(機械科)</li> <li>機械科教員で倉敷レーザー株式会社への企業見学を行った。(機械科)</li> <li>2年生はQC検定4級を4名が受験し、4名の合格した。(電気科)</li> <li>3年生は第2種電気工事士を前期に6名受験し、1名合格した。後期は3名受験した。(電気科)</li> <li>4年生は、進路課・電気科内で情報を共有し各自の進路に向け活動ができています。(電気科)</li> <li>6割(22人中13人)の生徒がアルバイトをしている。キャリアパスポートへ自分の言葉で記録をした。(1年団)</li> <li>hyper-QUの進路意識の「進路について仲の良い友人などと話すことがある」の項目で肯定的な回答の合計割合が46.2%だった。進路を見据えた考え方ができるようになってきた。(2年団)</li> <li>全員が卒業予定である。進学、就職予定者については進路が内定している。(4年団)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>例年通り、該当者の便宜を図ることを継続する。(庶務課)</li> <li>継続的に規範意識の向上を図ると同時に、前段階として発達支持的生徒指導の充実にも努める。(生徒課)</li> <li>進路ガイダンスについて、より多くの企業・学校のガイダンスが受けられるように来年度からはライセンスアカデミーを使用せず学校から企業・学校にお願いしていく。(進路課)</li> <li>各課との連携を密に出来るような体制を整えていく。(進路課)</li> <li>生徒が自分自身のことを理解するために、LHRの時間やガイダンス、体験的な学習を有効的に活用できるよう工夫する。(進路課)</li> <li>工場見学に限らず、少人数での企業見学実施の体制づくりやインターンシップ・オープンキャンパスの参加を促し、進路選択に役立てるようにする。(進路課)</li> <li>発達障害の診断のある生徒や、社会に適切に生きていこうという生徒に対する進路指導の体制づくりで地域若者サポートステーション等の利用など見直す必要がある。(進路課)</li> <li>キャリア・パスポートの定期的な活用は出来ているが、もう少し工夫し生徒にとって実用的な取り組みが必要である。(校外の人々とのふれあい)(進路課)</li> <li>教員研修や校内チーム制研修等を通じ、他課、SC、SSW及び外部機関との連携を図り、進路保障とも関わる取り組みを考える。(人権相談)</li> <li>学校での学びが進路につなげられるように意識して指導を行う。(機械科)</li> <li>資格指導は継続的におこなっていく。実習機器を整え、技能士にも生徒がトライできるように整備を進めていく。(電気科)</li> <li>OTEXへの参加を勧めるなど、進路に関わる情報を提供する機会を増やす。(1年団)</li> <li>進路を見据えた行動、資格試験等への挑戦を促す。(2年団)</li> <li>引き続き卒業に向けて指導する。(4年団)</li> </ul>